LIBERA

経法大の今がわかる
[リベラ]
KEIHO MAGAZINE

Vol. 90
April 2024

未来を生き抜く学び。

大阪経済法科大学

未来を生き抜く学び。

しっかりと前を向き、不確実で予想不能なこれからの時代を
力強く生き抜いていける自分へと成長した学生たちを、ここに紹介します。
時には立ち止まったり、思い悩んだりしたこともあったけれど、
本学での学びや経験を通しての「気づき」を機に、学生たちは大きな飛躍を遂げました。

特集1

SPECIAL FEATURE

2023年度卒業生の活躍

大化けしようぜ。

大阪経済法科大学で大化けした2023年度卒業生たち

防衛省本省 所在機関（国家一般職）

川北 純平さん
経済学部卒業
大阪府立生野高校出身

UNICEF インターンシップ

近藤 愛莉さん
国際学部卒業
大阪市立南高校出身
（現・大阪府立桜和高校）

慶應義塾大学 経済学研究科

吳 佳琪さん
経済学部卒業
Anglo-Chinese School
（シンガポール）出身

近畿日本鉄道株式会社

松原 宏樹さん
経済学部卒業
奈良県立高田高校出身

八尾市役所

大塚 隆聖さん
法学部卒業
岡山県立倉敷古城池高校出身

大阪経済法科大学学報［リベラ］
LIBERA
Volume90/2024

CONTENTS

02 大化けしようぜ。
【特集1】
2023年度卒業生の活躍
● 川北 純平さん
● 近藤 愛莉さん
● 吳 佳琪さん
● 松原 宏樹さん
● 大塚 隆聖さん

08 卒業式典レポート

09 【特集2】
挑戦する学生のいま
● 橋本 陸人さん
● 新川 愛美さん&浅田 将揮さん
● 山本 呼幸さん
● 沖藤 大基さん

13 授業紹介

14 未来につながる資格

15 躍動するクラブ&サークル
● 卓球部
● 写真部
● GDL 法律サークル
● 日本一魅力あるラグビー部へ
● 2023年度秋学期
体育会・文化会クラブ、サークル
団体の主な活動結果
● 2024年度春学期
体育会クラブ 主要公式戦予定
● 春学期の学生生活の主要予定

18 2024年度
大学事業計画・大学予算

20 【研究室へのいざない】Vol.1
菅原絵美教授

2024年4月19日発行
【編集】大阪経済法科大学事務局庶務課
〒581-8511 大阪府八尾市楽音寺6丁目10番地
TEL 072-941-8211 FAX 072-941-4426
https://www.keiho-u.ac.jp

川北 純平さん

経済学部 2024年3月卒業｜大阪府立生野高校出身

防衛省を志望したきっかけは、ロシアによるウクライナ侵攻。民間人にも死傷者が出ている状況を見て「似たことが日本で起こってもおかしくない」と感じ、安全保障に関わる公務に携わりたいと考えるように。

防衛省 本省 所在機関（国家一般職）

全力を出せなかった後悔を打ち破るために。

高校生の頃、私は勉強に行き詰まり、大学受験にも前向きに取り組めず、全力を出し切ることができませんでした。結果として入学したこの経法大は、第一志望ではなかったのですが、それでも「この大学でできることは何でもやろう！」と自分を奮い立たせ、私は大学での4年間に臨んだのです。

そんな私を後押ししてくれたのが「BIPプログラムに参加してみては？」という畑佐先生からのおすすめでした。講義の授業と違い、学生同士で自発的に意見を出し合ってまとめ、企業に提案するというこのプログラムでの体験は、私の意欲や自信を高めてくれたと感じます。何より、参加学生全員から前向きな挑戦心が感じられ、いい刺激をもらえました。こうしたプログラムや学生研究発表大会への参加といったチャレンジを通して、私は本当の意味で前向きな気持ちを取り戻していったのです。

防衛政策のスペシャリストに。晴れやかな未来が、ここから。

「日本の未来のため」が今後のモチベーションに。

2年生の終わり頃、私は「国家一般職の採用試験に挑戦しよう」と決意しました。社会に貢献できる仕事に就きたいという気持ちに加え、「この難しい挑戦をクリアできれば、本気になれなかった大学受験での後悔も晴らせる」という想いもありました。

国家一般職の専門試験は法律系科目の比重も大きく、経済学部生の私にとってそうした知識を改めて基礎から学ぶことは大変でした。しかし他学部の授業を履修できる制度を活用して「行政法総論」「憲法概論」「民法総則」などの科目を履修できたのは大きな助けになりました。それでも試験本番が近づくと「1日8時間勉強しても足りない！」と感じるほどでしたね。乗り越えられたのは「今度こそはやり通すんだ！」という強い気持ちがあったからだと思います。公務就職支援室で面接練習をしてもらえたうえ、いろいろな相談にも乗ってもらえたことも励みになりました。

防衛省の合格が決まった時は、とても晴れやかな気持ちになれました。もちろん、本当に大変なのはこれから。でも日本の未来のため、安全保障・国防に貢献できるということが、今後の私を支えるモチベーションになります。多くの経験を積み、防衛政策のスペシャリストへと成長していきたいと思います。

UNICEF 南アジア地域事務所（ネパール）インターンシップ

近藤 愛莉さん
国際学部 2024年3月卒業
大阪市立南高校出身（現・大阪府立桜和高校）

TOEIC®スコアは910。3年次のドイツ・アーレン大学への交換留学時にも現地の難民支援団体でのボランティアに参加するなど、その積極的な行動力が、自身の成長を支える一番の原動力となっています。

留学先のドイツでの出会いが大きな転機に。

大学入学前から、国際協力に関心を抱いていました。国際学部での幅広い学びをきっかけに私は、難民、女性、子どもといった社会的に弱い立場にある人たちの問題に、強く目を向けるようになりました。

「国連職員をめざして大学院に進学するか、企業への就職をめざすか？」と迷っていた私に衝撃を与えてくれたのが、3年次のドイツ留学での出会いでした。アーレン大学で共に学んだ人たちは国も年齢もバラバラで、何年か働いた後で大学に入った人や、自分探しの旅を経てここに辿り着いた人など、それぞれいろんな経験をされていました。漠然と当たり前のように進学か就職かを選ぼうとしていた私は、思い直しました。「今からでもきちんと考えて、自分が本当に進みたい道を選ぼう。もっと世界での体験を重ねて、自分の関心事をさらに追究したい」と。そして私は、UNICEF（国連児童基金）南アジア地域事務所（ネパール・カトマンズ市）でのインターンシップに参加できるという、大きなチャンスをつかんだのです。

現地で体験しなければ気づけないことがある。

このインターンシップの期間は、4年生の1月から始まり、3月末まで。ですから大学の卒業式には出られません。国連機関で実際に働き、国連職員の方々の仕事ぶりを間近で見られるというのは、何物にも変え難い経験です。発展途上国と呼ばれるネパールでの生活も体験。また、JICAや大使館などで働く日本人の方とお話しする機会にも恵まれました。ネットの情報とは違う、現地での多くの体験を通してさらに視野が広がり、自分に足りないことや今後学びたいことについても考えが深まりました。

支援する側の価値観を押しつけてはならないと気づけた。

秋からはベルギーのヘント大学の大学院準備コースに進学し、翌年の修士コースへのステップアップをめざします。難民など社会的弱者を支えるための学びを深めたい、という想いは変わりません。ただ、ネパールでの体験を通して、支援する側の価値観を押しつけず、支援を受ける側の文化や伝統への理解を大切にしたいと考えるようになりました。今後も世界の様々な土地を訪れ、考えを深めていきたい。自分の将来についても、まだ急いで決めつけなくていいと思っています。

慶應義塾大学 経済学研究科

吳 佳琪さん
経済学部 2024年3月卒業
Anglo-Chinese School（シンガポール）出身

中国生まれ。幼い頃から「将来は海外へ」という想いを抱き、シンガポールの高校を経て日本へ。東京の専門学校を卒業後、本学に3年次より編入。日本の好きなところは「おいしい料理と面白いアニメ」。

経済学との出会いが新たな希望を開いた。

「日本の大学で数学を学び、数学の研究者になりたい」というのが、日本に来たばかりの頃の私の夢。そのため日本語学校に通って大学受験に臨みましたが、志望校には合格できませんでした。それでも日本で学び続けたくて、専門学校に入学。その学校の授業で、経済学と出会ったのです。「経済活動は日常生活との関わりが深く、しかもこの学問分野には私が得意な数学が生かせる！」。私は本格的に経済学を学ぼうと、この経法大に編入学しました。

数学者になる夢は断念しましたが、だからこそ経済学の道はどこまでも突き詰めたい。編入学後、私はすぐ先生に希望を伝えました。「大学院に進学して、より深く経済学を研究したい」と。そして日々の授業にも熱心に向き合い、授業のあとは毎回のように先生に質問をしに行きました。

社会から不正な取引をなくしたい。だから私は、研究に打ち込み続ける。

そんな私の熱意に、先生方みなさんが親身になって応えてくれました。大学院受験に向けてどのような準備や学修が必要なのかを事細かに教えてくださり、さらに経法大の大学院経済学研究科の授業の傍聴の機会まで提供してもらって…。受験の時期が近づくと、研究計画書の添削や日本語のチェックまでしてもらいました。何より、一度は挫折を味わって自信を失いかけていた私に、先生が「君は英語が得意なのだから、それは強みになる」といつも励ましの言葉をくれたことは、大きな力になったと感じます。

博士課程においては米国への留学も視野に。

先生方に支えてもらいながら頑張ることで、希望していた慶應義塾大学の大学院に合格。両親にも先生方にも喜んでもらえて、本当に良かったです。

経済学のなかでも、私が最も関心を抱いているのがゲーム理論。大学ではサクラ入札といったオークションでの不正行為について、行動経済学や心理学の観点からアプローチするといった研究に取り組んできました。大学院でもこの研究を推し進めることで、社会での様々な取引における不正行為をなくすための手助けができれば、と考えています。さらにアメリカの大学院の博士課程に進み、修了後はまた日本に戻りたい。その後もずっと研究者として活躍し続けられたら嬉しいですね、この大好きな日本で。

松原 宏樹さん

経済学部 2024年3月卒業｜奈良県立高田高校出身

高校時代は卓球部に所属。大学進学後も卓球は好きで、大会に向けての練習に励んでいた頃とは違い、遊技場の卓球台で友だちと楽しく打ち合うことが、勉強の合間のいい息抜きになっていたそうです。

近畿日本鉄道株式会社

電車の運転士になるという夢を叶えたくて。

近鉄沿線で生まれ育ち、幼い頃から電車が大好きだった私は「大人になったら電車の運転士に」という夢をずっと抱いてきました。中学生の頃には本気で鉄道会社への就職を意識し始め、「就職支援が充実している大学へ」と考えて経法大に。実際に鉄道会社に就職した卒業生が何人もいることを知り、「この大学で頑張れば自分も!」という気持ちで入学しました。

入学後は、経済学部の授業でも「就活に結びつけば」と考え、経済成長率や物価などの経済指標を読み解く力を身につけ、雇用や賃金など企業活動と関わりの深い分野に重点をおいた学習に取り組みました。

2~3年次には学生研究発表大会に参加。チームで研究をまとめ、人前で発表するという経験は自信につながり、採用選考の面接試験での自己アピールにも役立ったと思います。

客観的視点で突き詰め、第一志望を再認識。

3年生からはキャリア演習で、本格的に就活の準備をスタート。希望している鉄道業界の研究に取り組むなかで、私が最も魅力を感じた企業は、幼い頃から親しんできた近鉄=近畿日本鉄道株式会社でした。日本の私鉄で最長の路線網を持ち、沿線の豊富な観光資源を強みに、多くの観光列車を運行している点。そしてチームワークを大切にする社風は、自己分析で確かめた私自身の性格にも合致し、何より他社と比べて早期に運転士の仕事に就けるチャンスがある点に強く惹かれました。他の鉄道会社や電機メーカーなどの他業界にも視野は広げていましたが、それでも「第一志望は近鉄」という意思を固め、私は就活を進めていきました。

幼い頃からの「憧れ」が、着々と「現実」に変わっていった。

キャリアセンターではエントリーシートの添削指導や面接練習だけでなく、いつでも気軽に立ち寄り、相談に乗ってもらえたのが心強かったです。鉄道会社での勤務経験のある職員さんがいて、いつも私のことを気にかけてアドバイスをしてくれて…。そうした支えもあって、ついに私は近鉄への就職を実現できました。幼い頃からの憧れが、大学での学びを通して現実の「就職先」になりました。これからも努力を怠らず、まずは駅での業務で経験を積み、将来的には特急列車の運転士へとステップアップを重ねていきたいと思います。

八尾市役所

大塚 隆聖さん

法学部 2024年3月卒業｜岡山県立倉敷古城池高校出身

ボランティアサークル『ツクルモノ（創造者）』では八尾市と連携し、近鉄八尾駅周辺の清掃活動、市の特産品PR、食品ロスに関する啓発活動、地域の人々とふれあう福祉活動など、幅広く活動しています。

公務員をめざす仲間と一緒にサークルを新設。

私は何事にも真面目にコツコツ取り組む性格。そんな自分らしさを生かせる仕事として、公務員を志すように。経法大では入学当初から課外講座のSコースを受講。2年次からは正課の授業で公務員特別演習も履修して、公務員試験に向けた準備を進めてきました。

その特別演習で、同じ行政職をめざすクラスの仲間たちとよく話していたのが「この大学には消防系や警察系のボランティアサークルはあるけれど、行政系のサークルがないよね？」ということでした。「それなら自分たちでつくろう！」と、私たちは3年生の時、八尾市の行政の取り組みについてリサーチ活動などを通して地域社会の活性化に貢献するボランティアサークル『ツクルモノ（創造者）』を、新たに立ち上げました。公務員特別演習の行政職クラスの2～3年生を中心に50人近くのメンバーを集めました。八尾市役所との連携の面では先生や大学職員の方々にもサポートしていただきました。私は創設メンバーの一人としてサークルの運営にも携わりましたが、大勢のメンバーのとりまとめには本当に苦労しました。それでも一人ひとりとできるだけ向き合って意見を聞くなど積極的なコミュニケーションを図ることで、よりスムーズな活動を支えることができたと思います。

ボランティアサークル、創造者（ツクルモノ）。公務員行政職をめざす経法大生約50名が参加しています。

自分たちで立ち上げたボランティアサークルでの経験が、大きな自信に。

現場で感じた不安を、現場での体験で解消。

2年生の時のインターンシップで、実際の市役所での窓口業務で、訪れる市民のみなさん一人ひとりに臨機応変な対応をされる職員の方のお仕事ぶりを間近に見て、私は感心するとともに少し不安になりました。「自分にできるだろうか？」と。でもサークルでの様々な経験が、私に自信をくれました。メンバーのとりまとめだけでなく、市役所の方々との打合せ、高齢者の方々にPCやスマホの操作について教えるデジタルサポート活動など、多くの人々と接する機会のなかで、行政職に必要な力が自然と高まったと感じます。

そして私は、八尾市役所の採用試験に合格できました。サークルで得た力や自信が、確かな支えになりました。この春からは市役所職員として、八尾市の発展に貢献していきたいと思います。その業務のなかで、後輩たちが引き継いでくれた『ツクルモノ（創造者）』と協力し合うといった機会も、訪れるかもしれません。楽しみですね。

第50回卒業式・大学院第8回学位記授与式を2024年3月18日に開催しました。

CONGRATULATIONS ON YOUR GRADUATION!

今年度は、経済学部219名、経営学部240名、法学部248名、国際学部201名、合計908名の学部生と経済学研究科経済学専攻9名、経営学専攻10名、合計19名の大学院生が卒業と修了を迎えました。

式辞に立った中井英雄学長は、「みなさんは、グローバル化や情報化の進展により、未来の見えない荒海に、一艘の小舟で船出しようとしています。本学で学んだ専門、つまり、『先人たちが答えのない未知の問題にどのように挑戦し解決してきたのかの体系的な方法論』を活かして、これまで以上に多様性を尊重し、平等で公平な社会を構築していくために、今後も学び続ける姿勢を堅持してほしい」と卒業生・修了生たちにお祝いの言葉を贈りました。

続けて、八尾市長からの祝辞が述べられた後、極めて優秀な成績で卒業・修了された学生に、学長賞が授与されました。

卒業生・修了生の学生生活を振り返るスライドが上映された後、法学部の石村和大さんが卒業生・修了生代表挨拶を述べました。石村さんは、地方創生に貢献する地方公務員になるという志を持って本学に入学してきました。その思いから、防犯、社会福祉や環境問題等地域の様々な課題に取り組むボランティア活動に熱心に取り組んできたこと、公務員をめざす学生同士が切磋琢磨するサークルを立ち上げたこと、公務員試験学習のなかで学んできたことを振り返り、行動したことで得られた経験や知識の大切さを強調しました。石村さんは、農林水産省の地方局である関東農政局に就職することが決まりました。「第一次産業の就業者の高齢化や減少などの要因により、日本の食料自給率は減少傾向が続いています。就職後はこの現象を少しでも改善できるよう、精一杯務めていきたい」と社会人としての抱負を語りました。

卒業生・修了生は、所属ゼミの先生から学位記を受け取り、先生や友人たちと記念撮影をしたり、思い出話に花を咲かせたりしていました。

卒業生・修了生のみなさんのこれからのご活躍を祈念しています。

My Ohbake Style 01

大学で学んだ国際的な会計知識を生かして活躍したい。

公認会計士現役合格

橋本 陸人さん
経営学部 4年
大阪府立泉北高校出身

高校在学中に日商簿記検定2級に合格し、本格的に公認会計士をめざす学修に取り組むため本学に。大学2年次に日商簿記検定1級と公認会計士試験短答式試験に合格し、3年次には公認会計士試験論文式試験に合格。

入学時より「公認会計士試験の現役合格」を目標に引地教授のゼミや課外講座のSコースで学修に励んできた橋本さん。毎日9時間は勉強といった生活を2年以上続け、試験直前は1日10時間を超える勉強も当たり前だったそうです。2023年11月、その努力がついに実を結びました。

「公認会計士になるために経法大に入学したので、それができなければ何のための4年間なんだ、というくらい強い気持ちで頑張ってきました。応援してくれる人たちの期待にも応えたくて…。なかでも藤原先生には、ご自身の監査法人での経験をふまえた実践的なご指導をいただき、とても感謝しています」。

藤原助教は本学卒業生。在学中に公認会計士試験に合格し、その後、監査法人を経て、教員として本学に戻られました。

「自分がめざす道の〝少し先〟を進む先輩が、いつも近くで支えてくれるのは心強かったです」。

橋本さんは経営学部で優秀な成績を収めています。

「広く経営の知識を得ることは公認会計士の実務にも役立つと考え、会計学以外の科目にも力を注いできました。またマーケティング専攻の学生とのグループワークでは、〝こんな考え方もあるんだ!〟といった自分とは異なる視点からの気づきも得られ、興味深かったです」。

3年生の2月からは大学の授業と並行して、内定先である有限責任監査法人トーマツでの研修がスタートしました。

「まだ本格的な業務には携われませんが、10年も20年も公認会計士を続けてこられた人たちが気さくに話してくれ、その方々から業務のことを直接学ぶことができるというのは、すごく魅力的な環境。将来的には、世界共通の会計基準として定められたIFRS(国際財務報告基準)関連部署への配属を希望しています。大学でも、日本と世界の会計基準の違いに強い関心をもって学んできましたからね」。

国際的な公認会計士としての橋本さんの活躍が見られる日も、そう遠くはありません。

特集2 SPECIAL FEATURE 挑戦する学生のいま

大化けしようぜ。

My Ohbake Style

02

さらなる高みへ。次は国際大会でのメダル獲得をめざす。

テコンドー部 全日本大会優勝

新川 愛美さん
経営学部 2年
東大阪市立日新高校出身

4歳から空手に取り組み、テコンドーを始めたのは中学生の頃から。高2の時に全日本ジュニアテコンドー選手権大会と全日本テコンドー選手権大会共に2位に。高3の時はジュニアで優勝を果たし、全日本でも3位に。

浅田 将揮さん
経営学部 2年
漢城高校（韓国）出身

幼い頃に友だちに誘われてテコンドーを始め、小2の時に全日本ジュニアテコンドー選手権大会で優勝。中3から韓国に留学し、本場のハイレベルな環境でテコンドーに打ち込み、高校卒業後に帰国して経法大に進学。

新川さんと浅田さんは、本学のテコンドー部に所属し、日々厳しい練習に打ち込んでいるアスリート。その成果として、23年9月の第17回全日本学生テコンドー選手権大会（インカレ2023）において、新川さんはキョルギ女子-57kg級で、浅田さんはキョルギ男子-58kg級で、共に優勝に輝きました。

さらに二人は、同年12月に開催された第17回全日本テコンドー選手権大会でも優勝（競技・階級はインカレと同じ）。学生だけでなく、一般の強豪選手が数多く出場するこの大会で、大きな存在感を示しました。

「インカレでは、高校時代の大会で勝てなかった選手に勝つことができ、自分の成長を実感できました。そこで得た自信が、全日本での結果にもつながったと思います」（新川）

「経法大のテコンドー部は少人数ですが、だからこそコーチが一人ひとりとしっかり向き合い、選手それぞれに足りない力や、必要な練習メニューを一緒に考えてくれます。ここじゃなければ、この成績は残せなかったかもしれません」（浅田）

24年1月のパリオリンピックアジア大陸別予選日本代表選考会では、新川さんは3位、浅田さんは2位。パリ五輪への挑戦は惜しくも叶いませんでした。

「一緒に切磋琢磨できる仲間がいるから、次の目標に向かって頑張ることができます。高校生の時に通っていた道場は同世代の人がいなかったので今の練習環境は楽しいし、互いに負けたくないという気持ちにもなります。まずはインカレと全日本の連覇をめざしたい」（新川）

「アジア競技大会、ユニバーシアード競技大会と、今後も国際舞台での活躍のチャンスが広がっています。世界で結果を出せるよう、頑張ります」（浅田）

大好きなテコンドーが、そして素晴らしいコーチや仲間が、新川さんと浅田さんをどこまでも高みへと導いてくれます。

My Ohbake Style 03

資格は将来のため。今の私は、挑戦そのものが楽しい。

高校では商業科で、その頃から簿記を学んでいた山本さん。全商簿記検定1級にも合格し、大学でも簿記を本格的に学ぼうと考え、本学に進学しました。

「経法大は資格取得のための授業とサポート制度が充実していると感じ、ここでなら頑張れそうだという印象を受けました」。

入学後すぐに簿記の授業と課外講座のSコースを受講し、6月には日商簿記検定3級に合格。その後も引き続き日商簿記検定2級の対策学修に励み、夏休みの終わりにはこの2級にも合格できました。

「3級と比べると、やっぱり2級の試験は難しかったですね。夏休み中も大学に来て勉強したり、実家に帰省する時も問題集を持っていって頑張ったり。大変でしたが、一度決めたことは絶対にやる、というのが私の信条。それに資格は将来必ず役立ちますから、絶対に取るんだ、という気持ちでした」。

さらに山本さんは日商簿記検定1級の合格をめざし、現在もより高度な簿記の専門学修に取り組んでいる最中です。また2年生からは、公認会計士や税理士の合格者を数多く輩出してきた引地教授のゼミに所属しています。

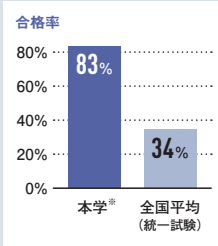
「まだはっきりとは決めていませんが、私がめざしているのは公認会計士などの会計専門職でなく、企業の経理部門での活躍。引地先生のゼミに入るのだから簿記や会計をとことん極めたいと考えて、日商簿記検定1級への挑戦を決めました。将来のためでもありますが、今はそれ以上に、資格試験への挑戦そのものが楽しい。それにこの大学には、一緒に同じ目標に向かう仲間もたくさんいます。一人だと、ここまで本気にはなれませんよ」。

簿記の勉強に打ち込みながら、インターンシップなどのプログラムにも積極的に参加している山本さん。楽しく挑戦を繰り返すなかで、自身の可能性をどこまでも広げ続けています。

日商簿記検定 2023年度合格実績

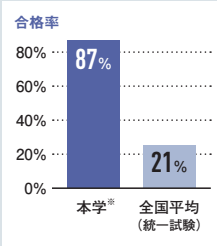
関西圏の大学でトップクラス！
全国平均を大きく上回る合格率。

◆ 日商簿記検定 3級



本学合格者数※ 177名

◆ 日商簿記検定 2級



本学合格者数※ 58名

※会計専門職プログラム完了者

山本 呼幸さん
経営学部 2年
愛媛県立宇和島東高校出身

高校時代はダンス部に所属。振り付けも自分たちで決めて取り組む創作ダンスで、地区大会で1位になって県大会に出場した実績も。大学でのお気に入りの場所は図書館で、「落ち着いて勉強できるのがいい」とのこと。

日商簿記検定試験 2級・3級合格

My Ohbake Style

04

公務員試験に向け、確かな手応えと自信がつかめた。

法学検定試験スタンダード合格

沖藤 大基さん

法学部 3年
広島県立三次高校出身

小学校から高校までサッカーに打ち込み、ゴールキーパーとして活躍。ケガをした影響で現在は競技への参加は難しいそうですが、サッカー観戦は今でも一番の趣味。飲食店でのアルバイトにも力を注いでいます。

「高校生の頃、将来について考えている時、家庭裁判所調査官という職業を知りました。非行少年を更生に導くといった仕事に強い憧れを感じたのが、公務員を志したきっかけです」。

そんな沖藤さんが本学を進学先に選んだのは、1年次から公務員試験に向けた準備を計画的に進められる点に魅力を感じたからだそうです。

「法学の知識を定着させるには講義だけでなく試験に挑戦するのが早道と考え、法学検定試験のスタンダードを受けようと決めました。1年生の時の基礎演習では、法学検定試験のベーシックの取得が推奨されていたので挑戦し、合格することができました。スタンダードは、次のステップとして挑んでみたいという気持ちもありました」。

とは言え、ベーシックと比べるとスタンダードは難易度が高く、決して楽なチャレンジではありません。

「問題集もベーシックよりずいぶん分厚くて、最初は驚きました。独学で進めていましたが、法学検定試験のための授業の担当教員だった高田先生がいつでも質問や相談に応じてくれたのがありがたかったですね。また、仲間たちもいつも図書館で私の勉強につきあってくれ、励みになりました。合格した時は、先生も友だちも一緒に喜びを分かち合えたのが嬉しかったです」。

この挑戦により、公務員試験の法律系科目への自信と手応えをつかんだ沖藤さん。今は数的推理など他の科目の対策に重点的に取り組んでいます。

「裁判所での仕事への憧れは強いですが、そこだけにこだわってはいません。経法大での学びを通して公務員にも様々な職種があることを知り、視野は広がりました。公務員になりたいという想いは、この大学でいっそう強くなりました。同じ目標を持つ素晴らしい仲間たちと一緒に頑張る日々のなかで、私の決心は揺るぎないものになっていますよ」。

法学検定試験 2023年度合格実績

法学検定ベーシック合格者数 全国4位。

［ 法学検定試験とは ］

公益財団法人日弁連法務研究財団と公益社団法人商事法務研究会が共同で組織した法学検定試験委員会が実施している、法学に関する学力を客観的に評価する、唯一の全国規模の検定試験。ベーシック〈基礎〉コース、スタンダード〈中級〉コース、アドバンスト〈上級〉コースの3レベルで構成されている。

▶ 法学検定試験 合格者数

ベーシック〈基礎〉コース	スタンダード〈中級〉コース
101名	22名

▶ 他大学との比較｜ベーシック合格者数

1位	熊本大学	132名	3位	近畿大学	104名
2位	札幌学院大学	114名	4位	大阪経済法科大学	101名

[授業紹介]

大化けのために1年生で学ぶこと

Let's Study Together

1年生の春学期に開講する基礎講座で
自分の興味がある学びを発見しよう。
それが大化けする未来への第一歩になるのです。

経済学部 | Faculty of Economics

経済学基礎（1年・春学期開講）

経済学は経済の仕組みや生産・消費などの様々な経済活動について学ぶ学問であり、「経済学基礎」では経済学の考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルを学びます。経済学は企業や公務員の業務と密接に関連しており、確実に修得することが求められます。

国際学部 | Faculty of International Studies

国際学基礎A（1年・春学期開講）

国際学とは、ある出来事を国際的な視点で分析し、その原因や解決策を模索する学問です。「国際学基礎A」では国際的な視点の分析に必要な、英語、コミュニケーション、社会の3つの専門領域から世界を理解します。この3つの領域から世界を見ることで、異なる価値観を理解し多様性を志向する力が身につきます。国際学部は、全員が外国語の運用能力を高め、留学をし、世界の具体的な事象について実体験をふまえて取り組みます。世界でサバイブするために必要な揺るぎない力を身につけてください！

経営学部 | Faculty of Business Administration

会計学基礎（1年・春学期開講）

「会計学基礎」では、企業経営の基盤となる財務数値の分析と会計学に関わる基礎理論を学びます。これらは不確実な環境で日々競争しているビジネスパーソンにとって、必要不可欠な知識及びスキルと言えます。この授業を通して、無理ゲー時代で勝利するための武器を手に入れてください！

法学部 | Faculty of Business Law

法学の基礎（1年・春学期開講）

法学部では法的三段論法・条文の読み方・法解釈といったスキルを身につけていきます。この「法学の基礎」では、法学部で学んでいくうえで必要となる基本的な事項を学びます。法学部で身につけるスキルは、他人を説得する時、ルールを決める時、契約を締結する時など、法曹や公務員だけでなくビジネスパーソンとして活躍するためにも求められます。

1年生から取り組むと未来につながる資格

あらゆる企業や職種で役立つビジネススキル

日商簿記検定 2級・3級

多くの企業が社員に簿記検定の資格取得を奨励するなど、簿記は経理・財務担当者だけでなく、あらゆる企業・職種に携わる人たちに必要不可欠なビジネススキルです。1年生の6月に日商簿記3級、9月に日商簿記2級の合格をめざします。Sコースの会計職基礎講座では同じ目標を持つ仲間と共に、全員合格をめざし、半年間全力疾走しましょう。

ITを正しく理解し、業務に効果的に活用できる力が身につく

ITパスポート

1年生の間にITパスポートの資格取得をめざします。ITパスポートはIT（Information Technology）に関する基礎知識に関する国家資格です。この資格の勉強を通して、ビジネスやIT業界で活躍するために必要な用語や仕組み、法律などについて学ぶことができます。AIと共存して生きていくみなさんには必須の資格です。

法曹や公務員をめざす学生にとってのファーストステップ

法学検定（ベーシック）

1年生の11月に法学検定試験（ベーシック）の合格をめざします。この資格の取得自体が法律を学んだことを客観的に証明するだけでなく、資格取得に向けた学習の経験自体がステップアップした次の資格取得へとつながっていきます。正課授業の「法学特別講義A・B」や、課外講座のSコース「法職基礎講座」などを開講しています。全力で合格をめざしていきましょう。

グローバル化する企業では採用試験や昇格に必須の資格

TOEIC® L&R

4月、7月、10月、1月、3月に学内でのTOEIC® L&R IPテストが実施され、国際学部では標準的な到達目標600、発展的目標730に取り組みます。現在では多くの企業が新卒採用や昇格条件としてTOEIC®を採用。正課授業として開講される必修英語や「Exam Prep.I～VI」、課外講座や英語圏1セメスター留学、英語で国際交流ができるE-Talkなど、英語運用能力向上のための学習の機会も充実しています。

まだまだたくさんの選択肢がある1年生のいまだからこそ、挑戦してほしい資格があります。

躍動するクラブ&サークル

[課外活動を通じて、成長・挑戦し続ける学生たちを応援します!]

Table Tennis

卓球部

顧問・監督 ｜ 勝 健真（経済学部准教授）

現在卓球部は関西学生卓球連盟1部リーグに所属し、過去には優勝もしている伝統あるチームです。目標はもちろん関西学生卓球リーグ戦で優勝すること。ただそれだけでなく、卓球部としての最終目標は、部活動を通して一生の仲間を作り、人間的に大きく成長することです。卓球を通じて、自分を支えてくれる方々への感謝の気持ちを持ち、仲間の大切さを実感し、思いやりや優しさのある人間になってほしいと願っています。大学は、一つのことに全力で打ち込むことができます。「無我夢中」になって頑張ったその先には必ず新しい道が見えてくるはずです。ぜひ共に汗を流し、成長をしていきましょう!

主将 ｜ 竹内 瑠聖（経済学部4年生）

我々は熱い気持ちを持った人を求めています。部員は高校で全国大会を経験した人から、本学入学後に活躍をめざす人など、様々な学生がおり、共に練習に励んでいます。大学では、頑張った分だけ結果につながりやすく、高校時代には勝つことができなかった選手に、大学で勝つこともあります。実際そのような光景を何度も目にしています。ぜひ、卓球部で共に下剋上を起こし、大学でもう一花咲かせましょう!

Photography

写真部

顧問 ｜ 橋本 凜（国際学部助教）

写真部では、1年生から4年生、一般学生から留学生、男女、学部関係なく、多くの部員が在籍し、仲良く活動を行っています。定期的に撮影会を実施し、全国の様々な場所に赴くことで、その場所、その時間でしか撮影できない風景等、それぞれの思いがたくさん詰まった写真を撮影し、学園祭等で展示会を開催しています。また、先輩学生が後輩学生に写真の撮影方法をレクチャーしてくれるので、初めてカメラを持つ学生も安心して活動に参加できるのも写真部の良い点だと思います。大学に入って何か始めてみたいなと思っている学生は、写真部がおすすめです!

部長 ｜ 成山 航基（経営学部4年生）

あなたは、「大学生になったらこれがしたい!」というような目標、やりたいことはありますか? ほんの少しでも写真を始めてみたいと思っているそこのあなた! ぜひ、一度写真部に見学に来てください! また、写真部には、スマホで写真を楽しんでいる部員もたくさんいます。さらに、カメラの貸し出しもしているため、部員になれば自由に使用できます。部員みなで楽しく活動できたらいいなって思っています。

Law

GDL 法律サークル

顧問 ｜ 大関 龍一（法学部准教授）

GDLは、本気で法律を学びたい学生のための学習サークルです。主に法曹志望者のための自主的な学習会や答案指導を行っていますが、公務員志望者や、法律の学修に関心を持つ学生も多く在籍しています。2023年度の春休みには東京合宿を実施し、裁判所・検察庁・弁護士事務所を訪問して、法曹三者の仕事を学んだほか、早稲田大学法科大学院を訪れ、実際の授業を見学する機会を設けました。週2回程実施している学習会は、活発な議論が展開されており、個々が成長する場となっています。本サークルを通じて、広く社会問題に目を向け、法的な視点から解決方法を思考する力を身につけてもらいたいと考えています。

会長 ｜ 上野 沙耶香（法学部4年生）

このサークルは設立して半年ほどですが、半年間で成長できたと感じることは、法律の論述式試験を受けた時の点数や、答案（論述式試験の解答用紙）の評価が以前より圧倒的に良くなったことです。顧問の先生がゼミを主催してくださったり、先輩後輩関係なく仲が良いので答案を学生同士で交換したり、サークル活動を通じてどんどん力がついていることが実感できます。法曹に興味があれば、ぜひ見学に来てください!

［ ラグビー部の再建に向けて ］

日本一魅力あるラグビー部へ。

2024年1月から、大阪経済法科大学ラグビー部監督に就任しました吉田明です。

私が、本学ラグビー部監督に就任することが決まって真っ先に考えたことは、自分の思い込みや今まで生きてきた経験のなかで作られた「固定観念」や「先入観」をなくすことでした。

私自身、常日頃「常識にとらわれず、新しいことに挑戦しなければ成功は見えてこない」という思いを持ち、これまで様々な世代のラガーマンの指導に携わってきました。今後、本学ラグビー部を指導していくにあたっても、この思いを決して忘れず、新しいことに積極的に挑戦していきたいと思います。

現在、本学ラグビー部は、公式戦に出場するために必要な部員15人が揃わない状況にあります。しかし、学生たちは「ラグビーがもっと上手くなりたい」、「ラグビー部を強くしたい」などの熱い気持ちを持って日々の練習に参加してくれています。

私は、今年のチームスローガンとして「伝統と創造の融合への挑戦」を掲げました。このスローガンには、これまでの本学ラグビー部で築いてきた伝統を基に、私のこれまでの経験や知識を活かし、現役部員たちと一歩一歩着実に進みながら新たな伝統を築き、それらを融合して新しい経法大ラグビー部を創り上げていきたいという思いを込めています。

ラグビーには、「One for All, All for One」(ひとりはみんなのために、みんなはひとりのために)という言葉がよく用いられます。私一人の力だけでは、どうすることもできませんが、学生たちやラグビー部に関わるすべての関係者と力を合わせ、「大阪経済法科大学ラグビー部を日本一魅力あるラグビー部」にするため、使命感を持って突き進んでいきたいと思います。

そして、ラグビー部の学生たちが、卒業する時に胸を張って経法大のラグビー部で良かったと思えるようなチーム作りを先頭に立って行っていきたいと思います。これからも、大阪経済法科大学ラグビー部へのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

吉田 明 監督 | プロフィール

1993年よりラグビー日本代表。ワールドカップ2大会に出場。また、神戸製鋼ラグビー部で日本一を経験。現役引退後、指導者や教員をめざし、京都産業大学大学院マネジメント研究科を修了。その後、ラグビー教室や高校生、大学生、社会人チームを指導。2015年から大学教員となり、教員・指導者両方の立場から体育会系学生のセカンドキャリアをサポート。

課外活動への参加方法 | コンタクトの方法や活動時間などの紹介

体育会・文化会クラブ、サークル団体への入部・入会方法

体育会・文化会クラブに入部するには、事前に各団体の入部説明会や練習会等に参加・見学するなど、各団体の活動内容を十分に確認してください。各団体への入部の意思を固めたら、入部を希望する団体の責任者（教職員や学生代表者）に入部届を提出してください。また、興味・関心のあるサークル団体に入会の意思を伝えると入会することができます。各団体への入部・入会方法、連絡の方法や各団体の活動内容などについては、学生課窓口で随時相談を受け付けています。

※大学における課外活動は、あくまで学生の自主性に委ねられています。したがって、クラブ・サークルへの入退部については、個人の意思によって決められるもので、その意思は尊重されます。

新規サークル団体の結成方法

新規サークル団体を結成するためには、顧問1名（教職員）、会員5名（学生）以上が必要になります。顧問、会員を集めることができれば、サークルの活動目的や活動方針を決定し、『団体結成届』などの必要書類を学生課に提出しましょう。学生課での審査を経て、新規サークル団体の結成が許可されれば、学内の施設等を利用して活動することができます。また、サークル活動で様々な活動実績を残すことができれば、体育会・文化会クラブに昇格することができます。

2023年度秋学期（10月～3月）｜体育会・文化会クラブ、サークル団体の主な活動結果

<体育会クラブ>

クラブ名	大会	活動結果
硬式野球部	阪神大学野球秋季リーグ戦 2部東リーグ	3位
軟式野球部	西都大学軟式野球秋季リーグ戦 1部	4位
サッカー部	関西学生サッカー後期リーグ戦4部Aブロック	7位
ラグビー部	関西大学ラグビーリーグ戦 Dリーグ	1位
卓球部	関西学生卓球秋季リーグ戦 1部	7位
男子バレーボール部	関西大学バレーボール秋季リーグ戦 4部	3位
女子バレーボール部	関西大学バレーボール秋季リーグ戦 7部	3位（6部昇格）

クラブ名	大会	活動結果
バスケットボール部	関西学生バスケットボールリーグ戦 4部Cブロック	2位
男子バドミントン部	関西学生バドミントン秋季リーグ戦 5部	4位
テコンドー部	全日本テコンドー選手権大会	優勝2名
空手道部	全日本学生空手道選手権大会	出場
剣道部	関西学生剣道優勝大会・関西女子学生剣道優勝大会	出場
柔道部	関西学生柔道体重別選手権大会	出場

<文化会クラブ、サークル>

団体名	主な活動結果
ストリートダンス部	第52回経法祭ステージイベント ダンスパフォーマンス
軽音楽部、音楽研究会、フォークソング部	第52回経法祭ステージイベント K-4LIVE 3団体合同ライブ
創造者（サークル）	フードドライブ活動、子ども支援活動

団体名	主な活動結果
国際交流サークルGATOR	ハロウィンイベント兼留学生歓迎会（留学生との交流会）
釣りサークル	芦屋浜海浜公園での釣行会
簿記会計サークル	簿記チャンピオン大会 団体2級の部2位、個人4位入賞2名
ECO～る（サークル）	花岡キャンパスふれあい池の水質保護活動

2024年度春学期（4月～9月）｜体育会クラブ 主要公式戦予定

クラブ名	開催時期	大会
硬式野球部	4-5月	阪神大学野球春季リーグ戦 2部東
軟式野球部	4-5月	西都大学軟式野球リーグ戦 1部
サッカー部	4-7月	関西学生サッカー前期リーグ戦 4部Bブロック
ラグビー部	9月～	関西大学ラグビーリーグ戦 Dリーグ
陸上競技部	4-5月	関西学生陸上競技対校選手権大会
アーチェリー部	4月	関西学生アーチェリー リーグ戦
卓球部	4-5月	関西学生卓球春季リーグ戦 男子1部
男子バレーボール部	4-5月	関西学生バレーボール連盟秋季リーグ戦 男子4部

クラブ名	開催時期	大会
女子バレーボール部	4-5月	関西大学バレーボール連盟秋季リーグ戦 女子6部
バスケットボール部	9月～	関西学生バスケットボールリーグ 4部
男子バドミントン部	5-6月	関西学生バドミントン春季リーグ戦 5部
テコンドー部	9月	全日本学生テコンドー選手権大会
空手道部	4月	関西学生空手道個人選手権大会
剣道部	6月	全日本学生剣道選手権大会
柔道部	5月	関西学生柔道優勝大会
少林寺拳法部	4-5月	関西学生大会

2024年度春学期の学生生活の主要予定

開催時期	主要予定
4月	クラブ・サークル体験・見学会／体育会クラブ応援企画／学友会執行委員会 新役員募集／各種奨学金制度 新規申込募集（日本学生支援機構奨学金、本学独自の奨学金制度等）／薬物乱用防止等に係る講演会
5月	経法祭実行委員会 委員募集／学友会執行委員会 選挙
6月	学生大会／経法祭模擬店出店者 募集
7月	クラブ・サークル生対象 危機管理研修会（AED、熱中症対策等）

2024年度 大学事業計画・大学予算

2024年度大学予算及び事業計画が3月25日に開催された理事会において承認可決されましたので、その概要を公表いたします。

本学は高等教育機関に課せられた社会的使命と責務を果たすため、各学部学科・研究科の養成する人材像の実現に向け、事業計画を着実に実行してまいります。

本学の教育研究活動に、引き続き、ご理解を頂きますようお願いいたします。

1 学生募集

○新コースの設置をはじめ各学部及び大学院における教育特色と実績を訴求します。新たなビジュアル・コピーを活用した広報活動を展開し、Web・SNS広報を本格的に展開します。

2 新学部学科構想

○DX（デジタルトランスフォーメーション）人材を養成する学部又は学科の新設を計画し、設置申請の準備を進めます。

3 各学部教育の充実

専門・専攻重視の教育課程の編成とその組織的な実施に向けた教学改革を進めます。

○経済学部「政策・データサイエンスコース」及び「公務員行政職プログラム」の新設、経営学部「ビジネスDXコース」及び「トップ企業志向の人材育成プログラム」の新設、法学部「ビジネス法コース」及び「法科大学院進学・3年卒業制度」の新設、国際学部における交換留学の促進に向けた特別プログラムの推進など各学部における教育改革を進めます。

○高度専門職業人の養成をめざして、大学院経済学研究科における修士論文の質向上を図るため、研究指導を充実させます。

○FD（授業内容・方法を改善し向上させるための教員の組織的な取組み）を通じて、教育方法の開発と授業改善を進めます。

○各学部において卒業論文合格率の維持・向上、大学で推奨する資格合格者数の拡大を図るため、正課内外の教育を強化します。

○留学生の留学目的や志望動機に依拠し、日本語教育から専門教育まで、留学生教育の充実を図ります。

○法科大学院試験、公認会計士試験、公務員試験など難関試験の合格実績の向上に向け、各学部教育並びにSコース（難関国家試験をめざすための特修講座）及び資格講座を強化するとともに、これら正課内外の教育の相互の連携強化を進めます。

4 国際教育・交流

○留学派遣と留学生の受入れの双方を拡大させ、大学教育の国際化を推進し、グローバルな多文化キャンパスを実現します。

○文化や言語の異なる学修者同士が、協働学修による意味ある経験をするなかで、自己と他者を理解し、新しい価値観を創造する国際共修の実現に向け、正課内外の取り組みを進めます。

5 就業力の育成・キャリア支援

○就職活動の早期化など雇用情勢の変化に対応し、各学部の教育改革を就業力へと結びつけ、学部特性を反映した就職実績の実現を図ることができるよう、キャリア教育と就職支援を展開します。

○留学生に対する全学的なキャリア支援を強化します。

○公務員合格者の拡大に向け、正課内外における教員及び公務就職支援室による指導をさらに充実させます。

6 学生生活の支援と課外活動の活性化

○学生が自主的・自律的に取り組む課外活動を大学教育における重要な柱として位置づけ、課外活動の活性化に向けた学生支援を強化します。

○「高等教育の修学支援制度」をはじめとする制度を活用し、修学意欲のある学生への経済的支援を行います。

7 施設設備の整備・利用

○教育環境の一層の充実を図るため、八尾駅前キャンパス及び花岡キャンパスのリノベーション計画を推進します。

8 地域連携・社会協働

○関西経済連合会に加入し、大阪の企業や各種団体との関係を築く礎を持つとともに、八尾市との連携を強化し、地域における防災力の向上に向けた取り組みを行います。

9 研究活動

○学内における研究発表会としての研究交流会を定期的に開催するとともに、論文公刊等による研究成果の発信を進めます。

○科学研究費補助金をはじめとする競争的資金の獲得増に向けた取り組みを進めます。

2024年度 大学予算書

2024年4月1日から2025年3月31日

（単位:千円）

収入の部	
科　目	金　額
学生生徒等納付金収入	**4,053,796**
授業料収入	3,802,156
入学金収入	245,500
その他納付金収入	6,140
手数料収入	**21,575**
入学検定料収入	19,000
試験料収入	75
証明手数料収入	2,500
補助金収入	**480,467**
大学整備充実資金運用収入	**2,410**
雑収入	**9,500**
収入の部合計	**4,567,748**
当年度収入超過額	**149,897**

支出の部	
科　目	金　額
人件費支出	**1,822,935**
教員人件費支出	1,067,241
職員人件費支出	706,971
退職給与引当特定資産繰入支出額	48,723
教育研究経費支出	**1,626,524**
奨学費支出	774,870
報酬委託手数料支出	364,299
その他教育研究経費支出	487,355
管理経費支出	**458,513**
報酬委託手数料支出	188,743
印刷製本費支出	130,758
その他管理経費支出	139,012
建物等減価償却引当特定資産繰入支出額	**379,436**
建物等修繕引当特定資産繰入支出額	**100,000**
その他の支出	**30,443**
支出の部合計	**4,417,851**

※この2024年度大学予算は、本学が予算管理目的のために設定している「大学の予算」の収支を勘定科目別に表示したものです。

収入について

2024年度の収入の概要は、以下のとおりです。
（金額は、すべて概算額です。）

❶「学生生徒等納付金収入」40億5千万円

新入生、在学生から納めていただく入学金、授業料等の学費です。本学における、主要な財源となっています。

❷「手数料収入」2千万円

入試の検定料等の収入です。

❸「補助金収入」4億8千万円

私立大学等経常費補助金と修学支援法による授業料減免費交付金であり、2023年度交付額を基準として計上しています。

支出について

2024年度の支出の概要は、以下のとおりです。

❶「人件費支出」18億2千万円

専任教職員や非常勤講師、嘱託職員・契約職員等に支払われる給与、手当及び退職給与引当特定資産繰入支出額などです。

❷「教育研究経費支出」16億2千万円

教育、研究に直接要する経費であり、前項の事業計画に沿って編成しています。

❸「管理経費支出」4億5千万円

教育研究活動を支える大学管理運営上の経費や、学生募集経費などです。

❹「建物等減価償却引当特定資産繰入支出額」3億7千万円

建物及び構築物の減価償却分を積み立て、建物等の建替えや施設等の充実に活用する特定資産です。

❺「建物等修繕引当特定資産繰入支出額」1億円

長期修繕計画に基づき、修繕費を積み立てている特定資産です。

❻「その他の支出」3千万円

教育研究用の機器備品・図書などの購入費です。

研究室へのいざない

Welcome to the Research Room

Vol.1

研究室の扉を開いてみよう

チョコレートからアイドルまで。身近にある、企業活動と人権の問題。

菅原絵美教授 SUGAWARA, Emi

「ビジネスと人権」の研究に携わる専門家として、旧ジャニーズ事務所問題を扱う報道番組での解説を求められるなど、メディアでの活躍の機会も多い菅原教授。その研究内容や意義・目的について、わかりやすくお話ししていただきました。

子どもたちの人権を侵害するチョコとは？

企業活動と私たちとの関わりで、一番多いのは「消費者として企業の商品を買う」といった関わり方でしょう。また、通学で鉄道を利用すればその鉄道会社と関わることになりますし、アルバイト先が企業という人もいますよね。このような企業との様々な関わりは、私たちに必ず何らかの影響を与えます。そのなかでも「人権に対しての負の影響」に着目し、これをなくすことに焦点を当てて課題や解決策を探っていくことが、私の「ビジネスと人権」という研究分野への取り組みです。

企業活動は国境を越えて広がっています。例えば日本で作られているチョコレート、その原材料であるカカオ豆の約8割がガーナから輸入されています。しかしガーナでのカカオ豆生産には児童労働の問題が指摘されており、そうすると私たちは「子どもたちの人権侵害のなかで作られたチョコレート」を食べていることになります。この事態を避け、児童労働の撤廃をめざし、日本のチョコレートメーカーでは児童労働のないカカオ豆生産をガーナに広げていくプロジェクトなどが取り組まれています。

環境問題も人権問題も企業が解決の主役に。

私たち一人ひとりが社会の一員であるのと同じように、企業もまた国際社会の一員です。こうした考え方から、2000年に国連グローバル・コンパクトが誕生。そこから「各国政府だけでなく、企業も国際問題を解決する主役に」という気運が高まっていきました。環境問題への取り組みは当然のようになり、近年は自社の人権方針を打ち出す企業も急速に増えています。

企業が人権問題と向き合ううえで、拠り所になるのは国同士が合意した国際人権法。事業をグローバルに展開する企業なら、国家間の共通基準である国際人権法を守るべきだという考えが徐々に定着してきます。これに伴い、取引の際に「相手企業が人権侵害をしていないか？」とチェックが入ったり、問題があれば取引先からも改善を促されたり、また問題のある企業は投資家や消費者からボイコットされるといった動きも社会に根づきつつあります。今後は、人権問題への積極的な取り組みが企業のインセンティブに結びつくような仕組みも作りあげていく必要があります。このような社会の動きを、私は研究活動を通して考えてきました。もちろん私一人でなく、国連や政府、企業とも協力しながら、研究成果に基づいた提言などに努めています。

人権問題は国ごとの文化・慣習や宗教にも深く関わるため、とても複雑です。しかし旧ジャニーズ事務所の事件からも感じられたように、私たちにとって身近な問題であることは間違いありません。就職して企業に勤めるようになればあなた自身も「主役」となってこの問題と向き合うことになりますし、ぜひ学部を問わず、すべての学生に関心を持ってもらいたいですね。

PROFILE

菅原 絵美 ［国際学部 国際学科 教授］

◎学位：博士（国際公共政策）／国際人権法修士
◎最終学歴：大阪大学大学院国際公共政策研究科、米国ノートルダム大学
◎主な担当科目：国際社会と法、国際人権法など

大学院生の時に国連グローバル・コンパクト事務所でのインターンシップに参加し、その後グローバル・コンパクトの日本事務局のスタッフに。以降も国連と深く関わり合いながら、国際社会における企業の社会的責任（CSR）についての研究を進めています。